

2月11日 まゆとも GTS 『森のオオカミは本当に悪者か』

まず、生演奏に合わせてお芝居が展開されるのが楽しかったです。バンジョーやクラリネットといった楽器が、おとぎ話をベースにした世界をうまくマッチしていました。ですが、幕が上がってからのダンスはもう少し見たかった。それぞれのオオカミを紹介するダンスでしたが、このチームの雰囲気伝えるにはちょっと短かったかな？ と思います。

さて、構成としては、「赤ずきん」「ともだちや」「三匹のこぶた」の三つの物語からオオカミが本当に悪者か考えてみるというものでした。はじめに姉妹の会話があるので、物語のテーマは分かりやすかったのですが、もう一ひねりあっても良かったと思います。「赤ずきん」の物語そのものは、ほとんどのお客さんが知っているので、ここで「実はお婆さんの振りをしないといけなかった意外な理由がある」など、本来の物語とは違う世界を描いてもよかったかもしれません。あるいは、誰もが知っている「赤ずきん」をするなら、紙芝居や人形劇の方法を用いるなど、他の2つの作品とは違う演出で行うと、より後の二作品との違いがはっきりと表れたのではないかと思います。

お客さんの反応が非常によかったと思います。もしチャレンジできるなら、劇中で、オオカミの登場する物語や、オオカミが本当に悪者と思うかお客さんに問いかける場面があってもよいと思います。観客との対話も含めて、実際に3本の物語を見て考えてみるという構成にすれば、お客さんも作品の世界に入りやすいのではないのでしょうか。(昨年、NHKで「昔話法廷」という番組が放送されていましたが、参考になるかもしれません)

広い空間だったので、演技することが難しかったと思います。下手のしげみに穴が空いていましたが、あのような舞台装置は、穴から顔を出したりするなど、ぜひ活かしてあげるといいと思います。

「ともだちや」という作品は初めて知りました。オオカミとキツネのやりとりが面白かったです。世の中にはまだ知られていない面白い絵本や童話がたくさんあるので、ぜひこれからも発掘して劇にしてもらえると嬉しいです。

須川 渡 (大阪大学演劇学)